

◆安全・安心で活気とやすらぎのある
快適なまちの実現に向けた施策



令和7年9月11日大田区豪雨に対する区の取り組み

令和7年9月11日の集中豪雨では、大田区初の「記録的短時間大雨情報」が気象庁から発表されました。雪谷地区を中心に区内の広範囲に浸水被害をもたらし、床上・床下浸水は合わせて591件(1月15日時点)にのぼりました。

区は、発災後、直ちに災害対策本部を設置し、被災された方々の生活再建に向けて、見舞金の支給要件の拡充をはじめ、り災証明書の発行や家屋の消毒、災害廃棄物の収集、ボランティアによる支援活動など、迅速に幅広い支援に着手しました。

今回の経験を機に、防災力をさらに強化するため、的確な防災情報の発信と迅速な被害情報の収集体制の見直しとともに、止水板の設置助成制度の創設や、豪雨を想定した区役所内の時系列行動シミュレーションの策定など、早急な対策を講じてまいりました。

今後も防災対策を一層強化し、きめ細やかな周知啓発を行うことで、区民の皆様が安全安心に暮らせる災害に強い大田区を実現してまいります。

フェーズごとの主な対応

フェーズ 01 緊急対応	<ul style="list-style-type: none">家庭用排水ポンプ導入災害廃棄物処理経費	
フェーズ 02 生活再建支援	<ul style="list-style-type: none">災害見舞金の支給、応急小口資金の貸付就学援助世帯への給付区民税等減免	
フェーズ 03 災害発生に備えた対応	<ul style="list-style-type: none">がけ崩れ応急対策助成、がけ等整備工事助成、がけ等アドバイザー派遣止水板設置助成土のう置場の追加設置水防カメラの整備公共施設修復工事等	

感震ブレーカー設置支援事業 新規

予算額 756万3千円

ポイント 通電火災防止に有効な感震ブレーカー購入費用を助成します！

事業概要

■背景・目的

これまで、所得基準を満たす高齢世帯などに対して、地震の際に電源を自動で止め、通電火災を予防する感震ブレーカーの無料支給を実施してきました。

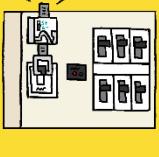
令和8年度は、木造住宅密集地域における通電火災防止を促進するため、対象世帯や対象器具の種類を拡大し、購入費用助成事業を新たに実施します。

■事業内容

木造住宅密集地域に居住する世帯に対して、感震ブレーカーの購入費用を一部補助します。

補助金額は、一括遮断型(分電盤タイプ・簡易タイプ・コンセントタイプ)の場合は上限2万円、特定機器遮断型(コンセントタイプ)の場合は上限7千円とします。

なお、これまで実施してきた無料支給事業についても継続します。

種類	一括遮断型	特定機器遮断型	
タイプ [¶]	分電盤タイプ 簡易タイプ	コンセントタイプ	
遮断範囲	屋内すべての電気供給	設置箇所のみ	
補助金額	上限 2 万円	上限 7 千円	
イメージ			

問合先

総務部 防災危機管理課長 荒浪 電話:03-5744-1704

避難所DXの運用開始 新規

予算額 2,850万3千円

ポイント 避難所の受付をデジタル化します！

事業概要

■背景・目的

これまで避難所の受付を紙の様式で行っていたため、受け入れに時間要することが課題となっていました。これを改善するため、令和7年度に大田区防災アプリの改修など、システムの構築を行い、受付のデジタル化に向けた準備を進めてきました。

令和8年4月から区内の全学校防災活動拠点(91か所)で避難所受付をデジタル化します。

これにより、スムーズな避難者の受け入れを実現し、待ち時間の短縮や事務処理の効率化を図ります。



【大田区防災アプリ】

■事業内容

(1)新たな受付方法

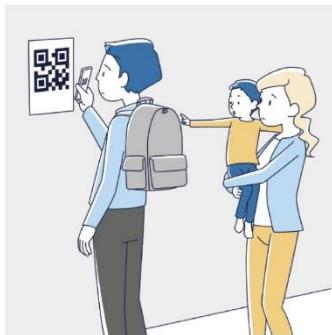
防災アプリにマイナンバーカード情報を事前登録しておくと、避難所に掲示される二次元コードを読み取るだけで受付が完了します。そのほか、避難所でマイナンバーカードを読み取るなど、複数の受付方法を用意し、避難者の利便性向上や避難所運営の効率化を図ります。

(2)機能を活用した実地訓練

発災時に円滑な運用が行えるよう、学校防災活動拠点と連携し、このシステムを活用した避難者受付訓練を実施します。

(3)避難所DXに関する幅広い広報

周知チラシやPR動画を展開し、新たな避難所受付の方法や防災アプリのダウンロード方法などを周知していきます。



【二次元コードを活用した入退所のイメージ】



【防災アプリに避難所チェックイン機能を追加】



問合先

総務部 防災危機管理課長 荒浪 電話:03-5744-1704

避難所環境整備事業 新規

予算額 4億3,741万3千円

ポイント 「スフィア基準」を満たした避難所環境を整備します！

事業概要

■背景・目的

大規模な震災が発生する度に避難所の劣悪な環境が問題視されてきました。最近の内閣府や東京都の指針では、誰もが不安やストレスを抱えず、安全に避難生活を過ごすため、スフィア基準を満たす居住空間の確保が求められています。一方、首都直下地震発生時に想定される避難者数に基準をそのまま当てはめるのは困難な状況です。

これを踏まえ、避難所は自宅が全壊した被災者などを中心に受け入れることを想定し、自宅などに留まることができない方には、出来る限り在宅で避難してもらうことを前提に支援に取り組みます。

そのため、在宅避難されている方を含めて、避難者が避難生活を継続するうえで必要な物品の整備を進めていきます。

■事業内容

適切な居住空間を確保するためのパーテーションや簡易ベッド、ペットの受け入れ体制に必要な物品(ペット用ケージなど)の整備を進めていきます。あわせて、避難者の衛生的な生活を守るために、近隣に入浴設備のない地区でも入浴機会を確保できるよう、災害用シャワー設備の整備や、下水道破損などで水洗トイレが使えない場合に備え、簡易便器と凝固剤を増備します。



問合先

総務部 防災計画担当課長 長谷川 電話:03-5744-1256

大田区住まいの防犯対策緊急補助金

予算額 7,263万6千円

ポイント 自宅に設置する防犯対策用品の購入・設置費用を助成します！

事業概要

■背景・目的

首都圏では近年、匿名・流動型犯罪グループ、いわゆる「トクリュウ」による凶悪犯罪が相次いで発生し、区民に大きな不安を与えています。これを受け、令和7年度から補正予算により、区民が住宅に設置する防犯対策用品の購入・設置に係る費用を助成しており、令和8年度も引き続き、同助成を実施します。

■事業内容

以下の12品目について、購入・設置費用の総額の3／4(上限30,000円、1,000円未満切り捨て)を補助します。

(対象品目)

- | | |
|--------------|------------------------|
| ・家庭用防犯カメラ | ・防犯性能の高い錠や補助錠の取付けまたは交換 |
| ・カメラ付きインターホン | ・ガラス破壊センサー |
| ・面格子 | ・防犯砂利 |
| ・防犯フィルム | ・センサーラーム |
| ・サムターンカバー | ・センサーライト |
| ・ドアガードプレート | ・防犯ガラス |

【ご自宅に防犯対策用品を設置して、侵入盗を防ぎましょう！！】



問合先

総務部 生活安全担当課長 熊谷 電話:03-5744-1216

水害から命を守る高台まちづくりの推進

予算額 3,138万円

ポイント 3D都市モデル「PLATEAU(プラトー)」を活用し、大田区エリア
全域の浸水リスクを閲覧出来る3Dハザードマップを構築します

事業概要

■背景・目的

近年の気候変動により水害が激甚化・頻発化していることなどを踏まえ、区民の生命・財産を保護することを目的に、強靭で回復しやすい減災都市をめざし、「大田区高台まちづくり基本方針」を令和7年3月に策定しました。

方針策定後も、令和7年9月11日に区内で浸水被害が発生するなど、水害リスクへの対応は喫緊の課題となっており、本方針に基づく取り組みをより一層推進していく必要があります。

本方針では、マイ・タイムラインに基づき、在宅避難や縁故等避難、水害時緊急避難場所への避難などによる「分散避難」を基本とする考え方を前提としつつ、国や都による治水施設などの整備の加速化に加え、仮に早い段階からの避難が出来なかった場合でも、命の安全(緊急安全確保先)や最低限の避難生活水準を確保できる避難場所、救急救助・災害復旧拠点となる「高台まちづくり」を推進しています。

■事業内容

国土交通省が主導する3D都市モデル「PLATEAU(プラトー)」をもとに、大田区独自の「VIRTUAL OTA」構築をめざし、ハザードマップの水害に関するデータと地形及び建物情報を仮想空間で統合することで、大田区エリア全域の浸水リスクを閲覧出来る3Dハザードマップを構築します。

これにより、区民が浸水リスクを具体的にイメージし、自分事として捉えられるようなツール作成をめざし、区民の防災意識の醸成を図ります。



出典：大田区高台まちづくり基本方針



出典：国土交通省 PLATEAU ホームページ

問合先

まちづくり推進部 都市計画課長 深川 電話:03-5744-1331

燃えない・燃え広がらないまちづくりの推進

予算額 4億4,561万2千円

ポイント 建築物の不燃化促進等による災害に強いまちづくりの推進

事業概要

■背景・目的

大森中地区や羽田地区は、老朽木造建築物が密集して火災危険度が高くなっています。重点的に不燃化を進める必要があります。特に羽田地区は、避難や救護活動に有効な幅員のある道路、公園などが少ないことから、継続した不燃化の取組が必要不可欠です。

このため、様々な事業手法を活用して、地域の安全性向上や良好な住環境形成をめざし、災害に強い、燃えない・燃え広がらないまちづくりを推進していきます。

■事業内容

(1) 住宅市街地総合整備事業の推進

羽田地区において避難路となる3本の重点整備路線の拡幅整備を推進します。また、用地を取得して延焼防止や救護活動に有効な公園・広場などの整備を行います。

(2) 都市防災不燃化促進事業

防災街区整備地区計画を制定した羽田地区などで、防災上重要な道路沿道において、老朽木造建築物の除却費用や耐火性の高い建築物に建替える際の費用の一部を助成します。

(3) 不燃化特区制度を活用した取組

不燃化特区の指定を受けた大森中地区、羽田二・三・六丁目地区などで、老朽木造建築物の除却費用や耐火性の高い建築物に建替える際の費用の一部を助成します。

災害に強く回復しやすい減災都市の実現をめざし、不燃化を加速するため、一部の助成については助成限度額の拡充(約1.3倍に増額)を行います。



【防災広場の整備(羽田地区)】

問合先

まちづくり推進部 防災まちづくり課長 須貝 電話:03-5744-1455

がけ崩れ災害の防止

予算額 7,312万3千円

ポイント 擁壁・がけの整備支援による、災害に強いまちづくりの推進

事業概要

■背景・目的

地震、台風、集中豪雨などにより災害が発生する恐れのあるがけや擁壁(以下「がけ等」という。)の崩壊を未然に防ぎ、区民の皆様の生命・財産を守るために、がけ等整備工事の助成やアドバイザー派遣により整備を促進します。

また近年、激甚化・頻発化している豪雨災害を踏まえ、がけ等が崩れた場合に実施する応急対策に対して支援を行うことで、二次災害の発生を抑制します。

■事業内容

(1)がけ等整備工事助成

整備の必要があると認められたがけ等の所有者に対し、擁壁の整備に係る工事費用の一部を助成します。特に、子育てNo.1都市の実現をめざし、災害に強いまちづくりを推進するため、崩壊時の影響が大きい通学路などの公道に面するがけ等の整備に対する支援を強化(助成制度を拡充)します。

例：個人所有で公道に面する崖の場合

【現在の最高限度額】600万円 → 【拡充後】1,500万円(2.5倍に増額)

(2)がけ等アドバイザー派遣

所有するがけ等の整備を専門家に相談したい方に対し、擁壁や斜面地の整備工事等に精通した専門家を現地に派遣し、状態を確認したうえで、がけ等の状況に応じた様々な工法や概算費用の提案などを行います。

(3)がけ崩れ応急対策助成

大雨によりがけ等が崩れた場合において、崩落土砂の撤去など応急対策に要する費用の一部を助成を令和7年12月から開始しました。

【助成による整備工事例】



整備前

整備後

問合先

まちづくり推進部 副参事(耐震改修担当) 須貝 電話:03-5744-1455

倒れないまちづくりの推進

予算額 8億9,772万1千円

ポイント 建築物の耐震化による倒れないまちづくりの推進

事業概要

■背景・目的

大規模な震災に伴う住宅の被害を最小限に抑え、区民の生命と財産を守るため、「大田区耐震改修促進計画」に基づき、耐震性に課題のある建築物の耐震化を促進し、災害に強い倒れないまちづくりを推進します。

■事業内容

(1)耐震コンサルタントの派遣

自宅などの耐震化を専門家に相談したい方に対し、建築士を派遣し耐震化に関する相談を受けるとともに、自宅の簡易診断を行います。

(2)住宅等の耐震化助成

耐震性に課題のある住宅・建築物の耐震診断、耐震改修設計、耐震改修工事を行う場合、これらに要する費用の一部を助成するほか、耐震診断などで耐震性が不足すると判断された木造住宅等の除却(解体)工事を行う費用の一部を助成します。

住み続けたいまちNo.1都市の実現をめざし、これまで以上に耐震化を加速するため、一部の助成について限度額の拡充を行います。

例：木造住宅耐震改修工事の場合

【現在の限度額】 150万円 → 【拡充後】 200万円(約1.3倍に増額)

分譲マンション耐震改修工事

【現在の限度額】3,000万円 → 【拡充後】4,000万円(約1.3倍に増額)

(3)耐震シェルター・耐震ベッドの設置助成

地震時に迅速な避難が困難な高齢者、障がい者及び要介護・要支援の方の生命を守るため、耐震シェルター・耐震ベッドの設置費用の一部を助成します。

(4)ブロック塀等改修工事助成

大地震によるブロック塀の倒壊を防ぐため、危険なブロック塀の撤去とその後のフェンス設置費用の一部を助成します。

子育てNo.1都市をめざし、子どもが安心して登下校できる環境を整備するため、助成限度額の拡充(約2倍に増額)を行います。



【耐震化工事例】

問合先

まちづくり推進部 副参事(耐震改修担当) 須貝 電話:03-5744-1455

住宅リフォーム助成事業の拡充

予算額 1億2,791万9千円

ポイント 安心して子育てできる快適な住環境づくりへの支援

事業概要

■背景・目的

生活環境の変化や多様なニーズに対応するために、住宅リフォーム助成の対象工事の拡充を行ってきました。子育て世帯の住居要件の緩和や、安心して子育てできる快適な住環境づくりの支援をさらに進めます。

また、令和8年度の対象工事に、新たに分譲マンション共用部のLED照明への更新や、これまで屋外のみとしていたアスベスト除去工事に室内も加えます。

住宅リフォーム事業の推進により、区民の皆様が安心して笑顔で暮らすことができるまちの実現をめざします。



■事業内容

工事区分	工事内容	助成率	上限額
A	住宅の質の向上(手すりの設置など)、循環型社会への対応(屋根・外壁塗装など)、脱炭素社会への対応(分譲マンション共用部のLED照明化や窓の断熱改修、太陽光発電システムなど)、耐震関連工事など	助成対象額の10% (※区の他助成制度・保険給付制度と併用の場合、例外あり)	20万円 (※区の他助成制度・保険給付制度と併用の場合、10万円が上限などの例外あり)
	アスベスト除去工事(屋外に加え室内を対象に)		
B	子育て環境の充実など多様な生活様式への対応(転落防止柵の設置、固定式宅配ボックスなど)		

※令和7年度までと同様に、工事区分のAとBは、それぞれ別枠の区分として申請可能です。

※対象工事によっては助成額・助成率に例外がありますので、詳しくはお問合せください。

問合先

まちづくり推進部 住宅政策担当課長 吉田 電話:03-5744-1342

安全・安心で活気とやすらぎのある
快適なまちの実現に向けた施策



HANEDA GLOBAL WINGSのまちづくり ～羽田空港跡地第1ゾーン都市計画公園の整備・運営～

予算額 9億8,947万6千円

ポイント 羽田空港に近接する都市計画公園の工事、いよいよ着工！

事業概要

■背景・目的

「羽田空港跡地第1ゾーン整備方針」(平成27年7月策定)で定めている「多目的広場を活用した憩いとにぎわいの創出」の実現に向けた第1歩として、都市計画公園(約3.3ha=33,000m²)を整備します。

整備後は、公園と隣接する羽田イノベーションシティが連携することで相乗効果を高め、羽田空港空港跡地第1ゾーンのにぎわいを創出します。

■事業内容

令和10年春の開園に向け、工事に着手します。また、工事期間中もイベントやワークショップを実施するとともに、専用ホームページを開設することにより、開園に向けた機運醸成と、地域や区民をはじめ多様な人々が参画できる公園運営への意欲を高めます。

公園内には、こどもから大人まで、思い思いの時間を過ごせる新しい“居心地のいい場所”となるよう、広大な芝生広場やパadelコート・3×3バスケットボールコートなどで構成されるスポーツフィールド、シンボリックな大屋根広場、管理棟などを整備します。



【都市計画公園完成イメージ】

HANEDA GLOBAL WINGSとは

羽田イノベーションシティや都市計画公園をはじめとした羽田空港及び市街地との近接性を有する「第1ゾーン」と、羽田エアポートガーデンやソラムナード羽田緑地など、国際線地区に直結する「第2ゾーン」から成るエリアを指します。

問合先

まちづくり推進部 空港まちづくり課長 中山 電話:03-5744-1648

新空港線整備促進事業

予算額 1億8,027万2千円

ポイント 新空港線第一期整備が開業に向けて動き出します！

事業概要

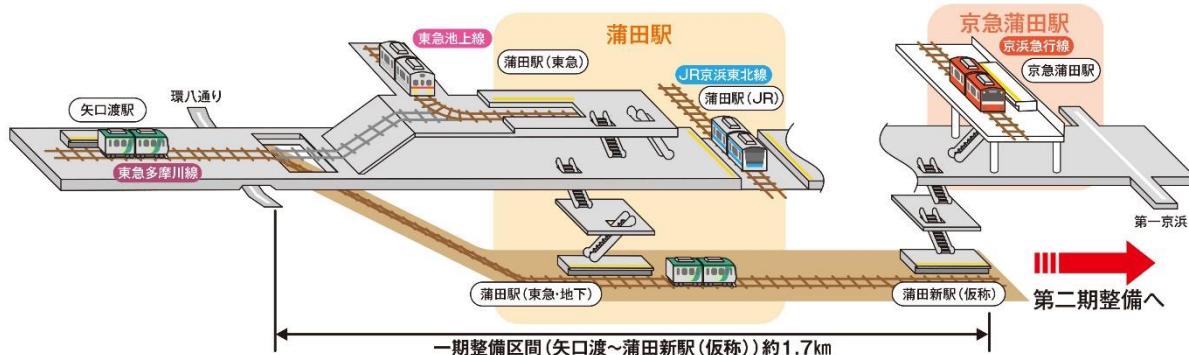
■背景・目的

新空港線第一期整備は、鉄道を整備する羽田工アポートライン株式会社(HAL)と営業する東急電鉄株式会社が国土交通省に申請していた速達性向上計画が令和7年10月3日に認定され、事業を実施する許可が得られました。今後は、HALが都市計画及び環境影響評価などの手続きを数年かけて行い、その後、令和20年代前半の開業をめざして工事に着手していきます。

■事業内容

第一期整備は、HALに対して都市鉄道利便増進事業の補助を行うとともに、蒲田駅周辺のまちづくりと合わせたPRを行い、事業の着実な進捗を支援していきます。また、(仮称)蒲田新駅から先の第二期整備についても、ルートや京急空港線への接続方法など、検討を深度化していきます。

第一期整備(イメージ図)



問合先

鉄道・都市づくり部 新空港線・沿線整備担当課長 首藤 電話:03-5744-1736

蒲田駅周辺地区のまちづくり

予算額 29億2,225万7千円

ポイント 蒲田駅周辺の新たなプロジェクトを具体化していきます

事業概要

■背景・目的

区の中心拠点である蒲田駅周辺では、これまで初動期整備として西口駅前広場や東口の地下自転車駐車場の整備を進めてきました。新空港線整備が事業化に向けて進展したことを受け、「蒲田駅周辺再編プロジェクト」を令和7年度に改定し、新空港線第一期整備の開業を見据えた中長期における蒲田駅周辺のまちづくりの方向性を示しました。今後は再編プロジェクトに位置付けた都市基盤の整備に向けた検討を深度化するとともに、駅周辺街区について機能更新を進めます。

■事業内容

駅舎・駅ビルの建替えや東西の駅前広場、自由通路など、新空港線整備に合わせた中長期の整備に向けて、関係事業者との協議・検討を進めるほか、蒲田駅東口駅前地区市街地再開発事業の進捗に合わせた地区計画変更などや駐車場地域ルールの運用に向けた取組を行います。また、東口の地下自転車駐車場についても引き続き整備を進めます。

新空港線整備と蒲田駅周辺のまちづくりの取組をわかりやすく伝える広報戦略を展開します。新空港線事業に合わせて蒲田のまち全体が現在から約15年後まで変化していく将来イメージを映像化するなど、多世代に配信します。



【JR 蒲田駅東口(将来イメージ)】



【東西自由通路(将来イメージ)】

問合先

鉄道・都市づくり部 蒲田駅拠点整備担当課長 吉野 電話:03-5744-1288
都市基盤整備部 建設工事課長 大見 電話:03-6436-8720

京急蒲田駅(西口)周辺地区のまちづくり

予算額 1億9,041万6千円

ポイント センターエリア北地区市街地再開発事業を支援していきます

事業概要

■背景・目的

京急蒲田駅西口地区は、密集木造建築物や細街路のような防災上の課題を抱えていることから、京浜急行線連続立体交差事業を契機として、地元主体によるまちづくりが進められてきました。

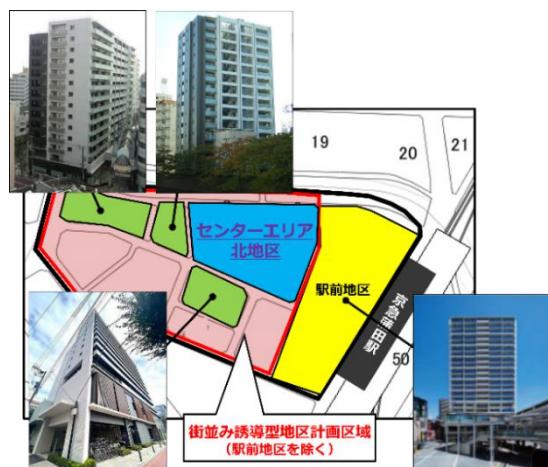
また、当該地区は、令和4年に改定した蒲田駅周辺地区グランドデザインにおいて、京急蒲田駅前拠点として位置付け、ハード・ソフト面で来街者を魅了する駅前拠点のまちづくりを推進しています。現在、センターエリア北地区では、このような方針に沿って、関係権利者が中心となって市街地再開発事業を進めています。

■事業内容

【センターエリア北地区市街地再開発事業の支援】

令和6年に提出された基本計画素案を受け、令和7年12月12日、第一種市街地再開発事業の都市計画決定を行いました。

令和8年度は、組合設立認可(事業認可)に向けた関係機関との協議・調整や施設の計画や事業進捗に必要な調査・計画等に要する費用の補助などの支援により、第一種市街地再開発事業を推進します。



【京急蒲田駅西口周辺地区区域図】

問合先

鉄道・都市づくり部 拠点整備第二担当課長 立花 電話:03-5744-1341

大森駅周辺地区のまちづくり

予算額 6,983万円

ポイント 大森駅を中心としたまちの魅力を高める取組を進めます

事業概要

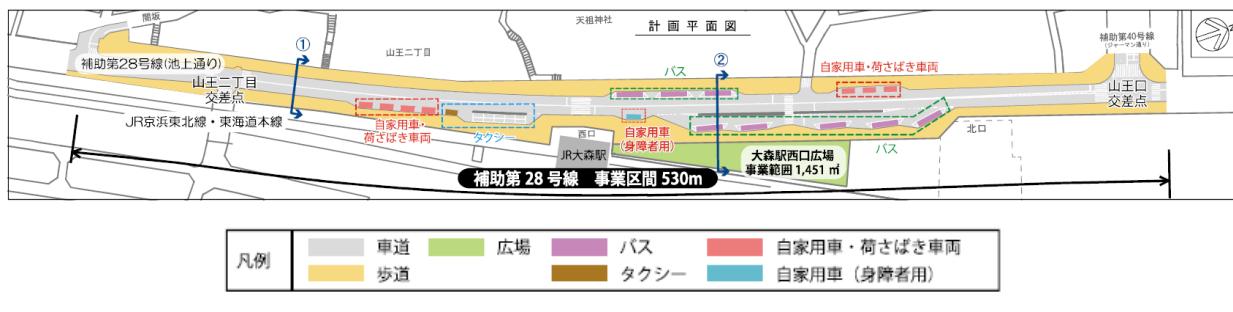
■背景・目的

安全で快適な大森駅西口駅前空間の確保に向けて、令和6年2月に都市計画道路補助第28号線(池上通り)整備と大森駅西口広場整備の都市計画事業認可を取得し、現在整備に向けて用地測量や調査・設計などを進めています。また、大森駅周辺地区の特徴を踏まえ、交通結節点機能の強化、まちの回遊性確保、にぎわい創出などに向けて、駅周辺の一体的なまちづくりの検討を進めています。

■事業内容

補助第28号線(池上通り)及び大森駅西口広場の整備は、引き続き、用地取得・設計に係る業務を中心に進めていくほか、交通戦略や西口広場などの空間デザイン方針を反映させた「大森駅西口周辺都市基盤施設整備計画」を策定し、詳細な設計につなげていきます。

また、駅周辺の一体的なまちづくりでは、同計画を踏まえた交通実態調査や各種検討を行い、地区の特色を活かしたまちづくりを進めています。



【補助第28号線(池上通り)及び大森駅西口広場 計画事業図】

問合先

鉄道・都市づくり部 拠点整備第一担当課長 立花 電話:03-5744-1341

下丸子駅周辺地区のまちづくり

予算額 2,899万2千円

ポイント 踏切解消を契機とした駅周辺の一体的なまちづくりを推進していきます

事業概要

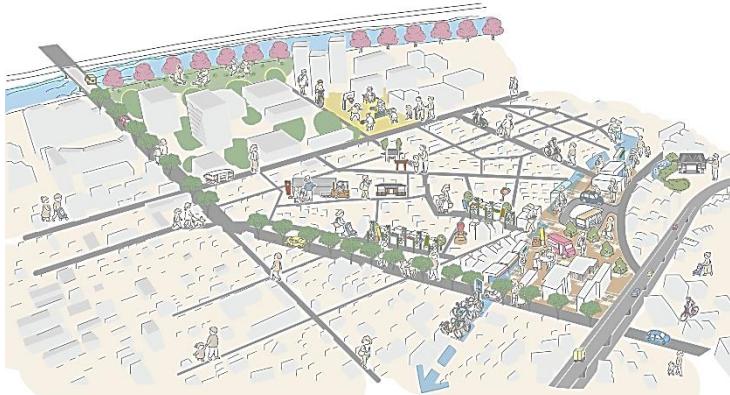
■背景・目的

令和7年度に策定する下丸子駅周辺地区グランドデザイン及び都市基盤整備方針に基づき、改正踏切道改良促進法により改良すべき踏切道に指定されている下丸子1号、2号踏切の対策と合わせ、駅周辺の一体的なまちづくりを推進します。

■事業内容

グランドデザインに示す将来像の実現に向け、地元関係者・事業者との連携によるまちづくりを推進するとともに、鉄道の立体化による駅周辺の踏切解消や立体化後の駅前広場などの都市基盤施設設計画の具体化に取り組みます。

また、踏切解消とまちづくりに向けた地域の機運を醸成するとともに、地域主体のまちづくり推進体制の構築をめざします。踏切の解消に向けた取組では、令和9年度の国の補助調査採択に向け、関係機関との協議調整を進めます。



【将来の下丸子駅周辺地区の姿(イメージ)】

※下丸子駅周辺地区グランドデザイン(素案)より



【下丸子2号踏切の状況】

問合先

鉄道・都市づくり部 新空港線・沿線整備担当課長 首藤 電話:03-5744-1736

平和島駅周辺地区のまちづくり

予算額 4,046万6千円

ポイント 地区の将来像「東海道の風情と浜風を感じ、未来に向けて自分らしく過ごせるまち」の実現に向け、着実に取組を進めます

事業概要

■背景・目的

平和島駅周辺地区が持続的に発展し、こどもや子育て世帯をはじめ、地域で暮らす人や働く人、訪れる人が自分らしくいきいきと過ごせるまちをつくり上げていくため、令和7年3月に「平和島駅周辺地区グランドデザイン」を策定しました。

また、喫緊の課題である駅周辺の歩行者環境改善に向けた関係機関との協議や、駅周辺街区の建替えも進んでいる状況などを踏まえ、グランドデザインで示すまちの将来像実現に向けて、平和島駅と周辺エリアを含めた一体的なまちづくりについて、着実に検討を進めていく必要があります。

■事業内容

駅周辺の歩行者環境改善に向けて、令和8年度は、検討した整備案をもとに国土交通省や警視庁など関係機関との協議をさらに進め、設計の深度化を図ります。

解体を予定している平和島水質管理所の跡地においては、駅や周辺の集客施設、公園などを含めた地区全体のまちづくりの方向性を踏まえながら、課題の把握や有効活用の検討などを行います。



【まちづくりの方針(駅前機能の充実)】【まちづくりの方針(回遊性の向上)】【平和島駅前の混雑の様子】

問合先

鉄道・都市づくり部 拠点整備第一担当課長 立花 電話:03-5744-1341

魅力あふれる公園づくり

予算額 13億8,241万6千円

ポイント 豊かなくらしと彩りあるまち みんなで育む愛され公園！！

事業概要

■背景・目的

「大田区基本構想」に示す基本目標を踏まえ、現在策定中の区内の公園における方向性や取組方針を示す総合的な計画となる「大田区パークマネジメントマスターplan」では、地域特性を活かした特色ある公園の充実をめざし、「みんなで育む愛され公園」を将来像としています。

この将来像の実現に向け、公園の魅力をさらに引き出す5つのアプローチとして「つくる」「支える」「守りつなぐ」「つかう」「高める」を踏まえた計画的・効果的な整備を推進します。

令和8年度は、“子育て環境の整備・拡充”を目的とした“子育てひろば公園づくり”をはじめとした魅力あふれる公園づくりを行い、未来へ受け継ぐ基盤整備を図ります。

■事業内容

- ・ 子育てひろば公園づくり～公園内に幼児用遊具コーナーを整備～
 - …馬込西公園、ほか2公園
- ・ いきいき健康公園づくり～健康遊具を活用したウォーキングコースの整備～
 - …西六郷地区
- ・ 抛点公園の整備(都市計画事業)～大田区を代表する大規模公園の魅力向上～
 - …平和の森公園(用地購入)
- ・ 公園の新設・拡張整備(都市計画事業)～まちのシンボルとなるような公園の整備～
 - …貴船堀公園、京浜島ふ頭公園、中央五丁目公園



問合先

都市基盤整備部 公園課長 小泉 電話:03-6715-1823

